

## 『 新年の抱負 』

事務所会報「アイクス」の担当者から新年の抱負について、書くように依頼されましたが、昨年、古希を迎えた私が、改めて、新年の抱負を語るより、今後75才までの林住期をどのように過ごすかについて語るの方が、適切な気がします。

作家の五木寛之氏は、その書、「林住期」の中で、『古代インドでは、人生を四つの時期に分けて考えたという。「学生期」「家住期」そして、「林住期」と「遊行期」。「林住期」とは、社会人としての務を終えたあと、すべての人が迎える、もっとも輝かしい「第三の人生」のことである。』と紹介しています。

『人生百年の時代を迎えて、これを四つに分けると、まず第一期が生れてからの25年間、これが「学生期」青春時代である。

第二期は、次の25年間、50才まで「家住期」朱夏時代である。これまでを人生の前半と考え、「林住期」と「遊行期」が人生の後半である。そして、人生のクライマックスは、実は、この後半、ことに50才から75才までの「林住期」にある』と述べています。

そして、氏は、一人の人間として、この世に生を受けるのはじつに、大海の一粟（いちぞく）を拾うほどまれなこと、人として生まれたこと自体が奇跡だと教えながら、この林住期をどのように生きるべきかについて、

「本来の自己を生かす。自分をみつめる。心のなかで求めていた生きかたをする。他人や組織のためではなく、ただ自分のために残された時間と日々を過ごす」ことを奨めています。

それでは、人の生き方について、何人かの人に聞いてみよう。

### 飯塚 毅氏（故人）

私達会計人の師で、元、TKC全国会名誉会長は、その書「自己探求」の中で、人間最高のイキザマは「己れを忘れて、他人の幸せを念じて行動出来る人」と教えています。

### 中村天風氏（故人）

日本人初のヨガ直伝者であり、戦前戦後を通し、各界の頂点を極めた幾多の人々が「生涯の師」として心服した。

その書「成功の実現」の中で、「およそ人生で何が大切かといって、積極的精神以上に大切なものはない。健康も長寿も運命も成功も、否、人生の一切合財のすべてがこの積極精神というもので決定される」と教えてくれています。

### 無能唱元氏

20年にわたって、独自の「<sup>じんとうじゆつ</sup>人蕩術」を説き、自分の思い描く夢や願望を確実に達成する方法を指導する異色の師。

その書「<sup>ひとたらし</sup>人蕩し術」の中で、「人間の現在ある姿とは、その人がかって自分について考えていたことの具現化したものである」とし、「人みなすべて、その思いのごときものになる」「成功者は、常に成功について考えており、失敗者は常に失敗について考えていたのがその原因である」と分析し、

『<sup>ひとたらし</sup>人蕩（人を魅きつける力）の極意は、「<sup>み</sup>魅は与によって<sup>しょう</sup>生じ、<sup>ぐ</sup>求によって<sup>めつ</sup>滅す」

すなわち、あなたが他人に何か与えれば、あなたに「魅きつける力」は生じ、あなたが他人から何かを取ろうとすれば、その力は即座に消えてしまう』と教えます。

### 瀬戸内寂聴氏

小説家でありながら出家得度。京都嵯峨野の「寂庵」庵主。仏教著書多い。

その対談の中で、『「忘己利他」は慈悲の極みなり』と言っています。忘己利他とは、我れを無にして他人の幸を願うこと、慈悲とは、仏心。

更に「人間が最も成長するのは恋愛です。仕事でも机でもない」「どんな恋愛もさけるべきでない。その結果がどんなものであろうと恋愛した方が成長すると教えています。

さて、それでは、肝心の私はどのように考えているかであります。

私は、人間がこの世に生れてきた目的は、人それぞれのDNAを進化成長させるためだと考えています。

人のDNAは、先天的なものですが、後天的にも、その人の精進努力によって成長進化すると考えるのです。

例えば、私のDNAは、親から授かり、変ることはないのですが、私がこの世で生ある間に精進努力すると私の持つDNAより、より優れたDNAを子供に引継ぐことが出来ると考えているのです。

この宇宙で、生きとし生きるもの、動物も植物も、すべてその終局の目的は、種の保存でしょう。種族保存のためには、生命の伝授と共に環境の変化に対応出来なければなりません。環境変化に対応出来た者だけが生き残れるのです。

よって、生命環境変化に対応出来る学習（精進努力）が必要なのです。

例えば、長い歴史の中で海中に住んでいた動物が陸に上って住むようになったとか、雨量の少ない砂漠に生殖する植物が、根を大きく広げ、葉を針のように小さくして水分の発散を防止する、などは環境の変化に適応したからこそ生き残れたよい例です。

それでは、どのようにして己のDNAを高めていくのか、生きる上で最も心すべきこと、次の詩は私の原点です。

中山慧照著「法句経の世界」より「自灯明」

おのれこそ おのれのよるべ おのれを措(お)きて 誰によるべぞ  
よくととのえし おのれこそ まことえがたき よるべぞを獲(え)ん

いったん緩急あった時、他人を頼りにしてもあてにはならない。最も信頼できるのは自分であって、それ以外の何者でもない。従って、日頃から、よく自分を鍛えておかなければならない、ということです。

それは、肉体的な面と精神的な面があります。

私は「健康な体に健全な精神が宿る」と考えます。

そして、肉体的な面の健康な体作りは、内部的に人間本来備わっている活力を活かすことであり外部的には、肉体を鍛えることです。

人間本来有している活力を活かす方法は、断食です。断食することにより、人間のあらゆる器官がパニック状態となり、その変化に耐えようとして器官が本来有している力を発揮することとなるのです。

肉体的な面の鍛錬は、朝晩それぞれ15分～20分ストレッチすること、最低1日1時間のスポーツ又は散歩すること。そして、1週間に1度は、ジムトレーニングないしは水泳をすることです。

大事なことは継続です。

精神的な面は、アメリカの詩人サムエルウルマンの「青春」が私の指針です。

青春とは、真の青春とは、若き肉体のなかにあるのではなく若き精神のなかにこそあるバラ色の顔、真赤な唇、しなやかな身体、そういうものはたいした問題ではない。問題にすべきは、強い意思、豊かな想像力、燃え上る情熱、そういうものがあるかないかである。～

年を重ねただけで人は老いない、理想を失うとき初めて老いる。～

頭（こうべ）を高く上げ希望の波をとらえる限り、80才であろうと人は青春にして已(や)む。

私の生活信条は、肉体的にも精神的にも日々鍛錬し、積極的に明るく生きることです。

71才と言え、林住期も残り少なく、むしろ遊行期に近い訳ですが、気持は林住期の真っ直中です。私自身のDNAをいつまでも成長させ、と同時に今後私と係り合うすべての人によい影響を与え、その人のDNAの成長に貢献できることが私の願いです。

合掌

平成19年12月1日

アイクス税理士法人

代表社員 飯田 昭夫